八重町郷土姿料館典機籽博士女帳

八芸可卿工質科毘辰懱與倧本古帳		
一般名利	称: 自動耕耘機 現地	也の通称:
資料種別	別:●製品-実物 ○製品-レプリカ ○製品-榑	
資料種類	類: □ 人力用具 図 手押式 図 耕耘用 □ 調製用 □ 畜力用具 □ 乗用式 □ 施肥播種 □ 施設類 図 原動機具 □ 牽引式 □ 管理用 □ 機素 □ トラクタ具 □ 定置式 □ 収穫用 □ その他	台帳No. Y206 相毛先悉号等 []
製作者・会社: 久保田鉄工㈱ 製造市・国名 大阪、堺		
製造年」購入年,標本収集年 1955年ごろ(エンジンは1953年発売)購入、		
使用目 的·使用	キンケード耕耘機が輸入され,石川,岡山,静岡, 待はずれに終った。しかし岡山の児島干拓地では, 活用を目途に水田用耕耘機の研究を進め,1926年に	ごろ、スイス:シマ一式,アメリカ:ユーチリタ,ビーマン,「福岡,新潟県で試用されたが,水田では実用にならないという期灌漑ポンプの駆動に発動機を多数導入していたため、それの有効一応実用に供しうるロータリ式耕うん機が完成した。また,1936古川氏が立軸スクリュー耕耘機を発明した。 →利用経過に続く
収集記録意義等	しかし、第2次大戦後の食糧難を見た軍需産業会社は 産法で優れた耕耘機の開発をした。これが1949~534	体制下で品質も悪く、燃料不足もあって各地に普及しなかった。 は、平和産業の主眼に耕耘機開発を置き、自慢の技術力と大量生 年に水田の耕起と砕土が一行程でできるとして全国に普及し、賃 し、海外への輸出も盛んに行われた。この水田耕起法が、耕耘機 の農業構造改善事業の成果である。
仕様書 ₋ 5 解説等 右に 全体図	クボタKME型耕耘機、 別資料から、KNDR90型ディーゼル機関9 -12Ps/2000rpmで変速前進6段・後進2段、耕 耘軸回転数も6段変速。耕幅75cm,耕深最大 20cm。 全体図1:標本、 2:クランク式解説図 関連図1:耕耘機ラベル 2:エンジンラベル 3:広瀬式クランク型耕耘機 4:古川式スクリュウ型耕耘機	TO SUM TO
外観特色関連図等	D I BE - T	
資料の L 所在	建物連絡通路、階段下	等 9 1
資料管理 経過	各部に腐食が見られ、錆の進行を止める対策が必要	¥ 2.
作業メモ 追記文		